

独立行政法人日本スポーツ振興センター委託事業

令和5年度

課題解決型アスリート育成パスウェイ構築支援プログラム

「メダルポテンシャルスポーツ育成のための持続可能なシステム構築支援」

JMSCAボルダー育成拠点及びボルダー、リード育成・強化拠点（令和5年度募集）評価項目一覧（採点表）

応募施設名：

（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会強化委員会

2023年9月

応募申請書が以下の観点で書かれているかを評価します。

5点	非常にそう思う
4点	そう思う
3点	どちらともいえない
2点	そう思わない
1点	非常にそう思わない

①応募拠点名称：JMSCAボルダー育成拠点		評価
1	所管のPFと持続的・発展的に連携し、次世代アスリート育成に貢献できる。	
2	所定のクライミングウォール要件を概ね満たすボルダーウォールを有し、低年齢ユースクライマーの育成に適したルートセットが可能。	
3	通常営業中でも最大15名がストレッチできるスペース（30㎡：1名につき2㎡程度）を有し、低年齢ユースクライマー15名とその保護者、施設スタッフ3名を対象に、座学を含む育成プログラム及びコーチ人材育成プログラムが実施可能。	
4	アシスタント（事業担当者）を1名配置できる。	
5	施設スタッフ3名は育成プログラムにアシスタントコーチとして参加し、同時にコーチ人材育成プログラムに受講者として参加できる。	
6	小学1年生以上を対象とするスクールの運営実績	
7	施設スタッフがJSPO・JMSCA公認スポーツクライミング指導者の登録済み、または登録予定	
8	付加価値 宿泊施設やフィットネス施設あり、等	
Score		0

②応募拠点名称：JMSCAボルダー、リード育成・強化拠点		評価
1	所管のPFと持続的・発展的に連携し、次世代アスリート育成に貢献できる。	
2	所定のクライミングウォール要件を概ね満たすボルダーウォールとリードウォールを有し、ユース強化選手及びユース日本代表の強化に適したルートセットが可能。	
3	通常営業中でも最大20名のユース強化選手及びユース日本代表、シニア日本代表を対象に、強化練習会（ボルダー、リード）が実施可能。	
4	アシスタント（事業担当者）を1名配置できる。	
5	施設スタッフ3名は強化練習会に支援スタッフとして参加できる。	
6	ジャパンツアー（ボルダーまたはリード）の開催実績	
7	施設スタッフがJSPO・JMSCA公認スポーツクライミング指導者の登録済み、または登録予定	
8	付加価値 宿泊施設やフィットネス施設あり、等	
		Score 0

総合得点が同点だった際は、協議の上、次の方法から選定施設を決定する。

決選投票

採点方式で選定施設が決しない場合、選定委員の決選投票で選定施設を決定する。